

第1章 市 の 概 要

1 地 勢

本市は、九州の東端、瀬戸内海を臨み、高崎山をはじめ霊山、九六位山などの山々が連なり、市域の約半分を森林が占めるなど、豊かな緑に恵まれています。また、これらの山々を縫うように一級河川である大野川、大分川が南北に貫流しながら別府湾に注いでいます。

2 沿 革

大分市域は、5世紀前後には大和朝廷との結びつきを深め、7世紀の終わりごろには律令制のもとで豊後の国の国府が置かれ、瀬戸内海を通じて中央との海路往来も盛んに行われ、約450年にわたり政府所在地として栄えました。鎌倉時代には、大友氏が豊後守護となり、さらにめざましい発展を遂げ、特に第21代宗麟公の時代には北部九州6カ国を支配下に治め、キリスト教を保護しながら南蛮貿易を積極的に進め、府内（大分）は異国情緒あふれた南蛮文化が花開き、九州の文化の中心となるなど隆盛をきわめました。

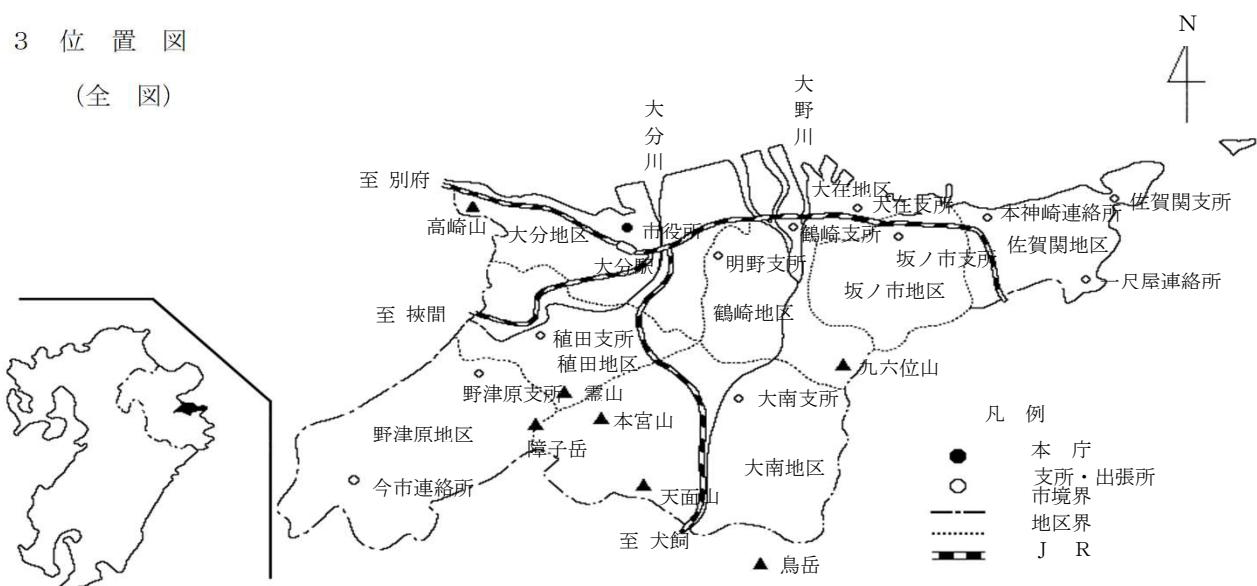
しかし、その大友氏も16世紀末には滅亡し、江戸時代になると小藩分立政策により現代の大分市にあたる地域は、府内、臼杵、岡、熊本、延岡の各藩や幕府領に分割統治されました。

明治4年、廢藩置県により大分県が誕生し、県都大分町として再び行政の中心となり、明治44年4月1日に、市制施行により大分市が誕生しました。

昭和38年3月10日、大分市、鶴崎市、大南町、大分町、大在村、坂ノ市町の6市町村が合併して大分市が発足し、昭和39年1月には、新産業都市に指定され、さらに平成9年4月1日には、中核市へ移行、平成17年1月1日の佐賀関町、野津原町との合併を経て、人口48万人を擁する都市へ大きく成長してきました。

3 位 置 図

（全 図）



4 面 積 及 び 広 ぼ う

面積	広ぼう					
	方位	地名	距離	方位	地名	距離
502.39km ²	東 西	高島 大字今市字尾崎	50.8km	南 北	大字高原字高沢山 牛島	24.4km

5 人口と世帯数の推移

(各年4月1日現在)

年	世 帯 数	人 口			人口密度 (1km ² 当たり)
		総 数	男	女	
H15	174,538	441,891	212,634	229,257	1,224
H16	176,883	443,548	213,421	230,127	1,229
H17	186,169	463,514	222,760	240,754	925
H18	189,026	464,964	223,242	241,722	928
H19	192,095	466,673	224,071	242,602	931
H20	195,844	469,832	225,783	244,049	937
H21	199,284	471,974	226,924	245,050	942
H22	201,866	473,463	227,676	245,787	944
H23	204,182	474,659	228,248	246,411	946
H24	207,692	476,640	229,194	247,446	950
H25	208,097	476,723	229,030	247,693	951
H26	210,226	477,640	229,454	248,186	952
H27	212,396	477,853	229,541	248,312	951
H28	214,752	478,241	229,591	248,650	952
H29	216,853	478,491	229,742	248,749	952
H30	218,643	478,222	229,604	248,618	952
R1	220,698	477,858	229,460	248,398	951
R2	222,681	477,393	229,275	248,118	950
R3	225,511	477,448	229,434	248,014	950
R4	227,321	476,386	228,896	247,490	948
R5	229,500	475,163	228,294	246,869	946
R6	231,206	473,101	227,498	245,603	942
R7	233,184	471,290	226,801	244,489	938

[注] 住民登録人口による (住民基本台帳人口+外国人登録人口)